

汐風を食べてみませんか。

山の恵みが汐風とともに、海の恵みとなってやってきました

南三陸ならではの「笑顔でおもてなし」

いよいよ「伊達な旅キャンペーン」がスタートしました！南三陸町のみならず県内各地で魅力いっぱいのイベントが目白押しです。ぜひ皆さんもこの機会に宮城の魅力を再発見してみたいませんか？

そして、南三陸町にも様々なイベント企画をきっかけに、多くのお客さんが訪れることと思います。南三陸ならではの「笑顔でおもてなし」してみませんか？

南三陸で「タコを食べよう！」

お待たせしました！仙台・宮城デスティネーションキャンペーンに引き続き、南三陸で「タコを食べよう！」のシーズンがやってまいりました！

なんと今年は、飲食店組合有志の方々の元気な活躍がJR東日本の目にとまり、JRを利用して南三陸で日帰り旅行を楽しむ「伊達な日帰りプラン」に組み入れられることになりました。

町を訪れたお客さんは、志津川駅に設置してある「南三陸タコ料理マップ」を片手に、のんびりと街歩きも楽しむことでしょう。

お客さんの目印は「南三陸タコツアー」の缶バッジです。どこに行こうか、悩んでいるようなお客さんを見つけたら、ぜひ南三陸ならではの「おもてなし」の心でお声がけをお願いします！



民宿で「漁師鍋を食べよう！」

先月号で伊達な旅キャンペーン期間の実施事業として紹介した「民宿に泊まって漁師鍋を食べよう！」キャンペーンもいよいよスタートします。

このキャンペーンでは、我が町の民宿を訪れたお客さんに、南三陸の心の温かさとお店の味を存分に味わっていただきたいと思えます。ご親戚やお友達などにも、ぜひこの機会に南三陸の魅力をお伝えください。なお、PRにご協力いただける方にはチラシをお配りします（お1人様5枚まで）ので、ご希望の方は南三陸時間旅行サポートセンターまで問い合わせください。

※伊達な旅キャンペーン

昨年開催された「仙台・宮城DC」に引き続き、県内の各自治体・企業などが参画し宮城の魅力を存分に発信するため開催するキャンペーンです。期間中、県内各地で様々なイベントなどが催されます。このたびは総合パンフレットとして「伊達な旅キャンペーンガイドブック」が発行されました。数に限りがありますが、希望される方は産業振興課観光振興係まで問い合わせください。 産業振興課観光振興係 ☎46-1378

教育旅行・民泊受入れ家庭の募集活動をスタートします！

町では、来年春に予定している中学生の民泊受入れ事業を円滑に行なうため、今月から年度末に掛けて各家庭を対象とした「民泊受入れ家庭募集活動」をスタートします。町の職員や観光協会の職員などが、連絡のうえ直接事業内容の説明に伺います。その際は、職員である証明書を提示しますので、よろしくお願ひします。

また、各行政区や地区団体の集会などにおいても職員がお邪魔してご説明をさせていただきますので、お時間をいただける場合には南三陸時間旅行サポートセンターにご連絡ください。

庄内の風 ③7

友好町の山形県庄内町を紹介する情報コーナー

ただいま庄内新潟デスティネーションキャンペーン期間中！ 今「庄内」がおもしろい！

新潟県全域と山形県庄内地域を会場として、JRや観光業者が連携して行う大型観光キャンペーンが本年10月から12月にかけて行われます。

庄内町観光協会でも、この期間中に様々な企画を行います。そのひとつが米どころ庄内のおいしい「庄内米」と「地酒」、山形県の母なる川の恵み「最上川ガニ」を堪能できる日帰りの旅です。さらにはそれに加え、松尾芭蕉や源義経も訪れたゆかりの地や、羽黒山の国宝五重塔も訪ねる1泊2日の旅



も企画しました。また、酒田市や庄内町などが舞台となったアカデミー賞受賞映画「おくりびと」のロケ地巡りや、9月12日にオープンしたばかりの「庄内映画村オープンセット」もおすすめです。

今年の秋の行楽シーズンは、様々なおもてなしが行われる庄内が、お得でおもしろいこと間違いなしです。

【日本一おいしい米の里をゆく 日帰りの旅】

◇実施日

10月25日(日)、11月1日(日)、11月15日(日)

◇旅行代金 4,000円

【日本一おいしい米の里をゆく 1泊2日の旅】

◇実施日 11月7日(土)～8日(日)

◇旅行代金 15,000円

申込先 (株)日本海トラベル ☎0234-43-4312

夢大使 リレー通信 ③9



夢大使
千葉 幸記さん
(茅ヶ崎市)

各地で活躍する南三陸町夢大使の皆さんの声をお届けする「夢大使リレー通信」を連載しています。今回は、東京歌津会会長の千葉幸記さんです。

ふるさとを出でて、あれから50有余年。昭和の合併になる前、南三陸町は志津川町、入谷村、戸倉村、歌津村でした。それから東京で聞いたもの。入谷・戸倉・志津川の合併。歌津村から歌津町になり、チリ地震津波による被害や鉄道の開通など。変革の20年を遠くで知るのみでした。地元の人々は、近くにあつて春夏秋冬を乗り越えて、今日ある事を畏敬に思うものです。そして、南三陸町となり、いかに変革、今後はいかに？やはり、これまた地元の人々

に託すのみです。「出身はどこ？」「気仙沼の近くです」「気仙沼ってどっ？」「三陸です」以前はこんな感じでしたが、今は、「南三陸です」と言うのと、だいたい地図上の位置が理解されているようです。「松島の上のほうです」「松島は行った事あるよ。いいとこだね」これが、東京圏の会話の定番です。最近では、「本当は松島から気仙沼の間がいいんだよ」と勧められています。

ふるさとは遠きにありて思うもの ふるさとは近くにありて守るもの

観光的には、日本三景の松島には及びませんが、これからは、松島から気仙沼ライン、特に真ん中に位置する南三陸町。いいよねえ。南三陸町には、地元の人々との交流型観光があり、その土地の文化や季節の風物などに触れることができる体験型観光があります。実際、知人や友人の同行者の大方は「また行きたい」と言ってくれます。南三陸町観光協会も法人格を取得したとの事。好感度ナンバーワンを地域を目指してください。当方も、遠くにありて「ガンバリマス」

